

菓子野地下式横穴墓出土人骨の分析成果について

国内で初めて古墳時代の人骨の歯石から当時の食物痕跡を確認！

平成 23 年 12 月に都城市教育委員会が発掘調査を行った菓子野地下式横穴墓 2011-2 号から出土した人骨について、九州大学と鹿児島女子短期大学の先生方に依頼して、各種分析を行った結果、先月までに南九州の古墳時代研究にとって貴重な成果が得られましたので報告します。

特に、人骨の歯石から残存デンプン粒を検出して、当時の食物痕跡を確認できたことは、国内で初めての事例であり、貴重な発見となりました。

1 性別・年齢等の推定

- ・調査者：鹿児島女子短期大学教授 竹中 正巳 氏
- ・A 号玄室については、奥から熟年男性、幼児（性別不明）、壮年男性が、B 号玄室には、熟年女性が埋葬されていることがわかりました。また、頭骨は全体的に面長であり、同時代の宮崎平野部の人骨ほどはないが、従来の山間部の人骨に比べると、やや渡来人的特徴を有しているようです。

2 食物痕跡の検出

- ・調査者：鹿児島女子短期大学助手 下野 真理子 氏
- ・A 号玄室奥に埋葬された人骨の歯から残存デンプンが確認されました。下顎左第二大臼歯の歯石から検出されたデンプン粒を現生標本と照らし合わせた結果、この熟年男性は、亡くなる前にアズキやオオバユリを食べていた可能性が考えられます。

3 親族関係の推定

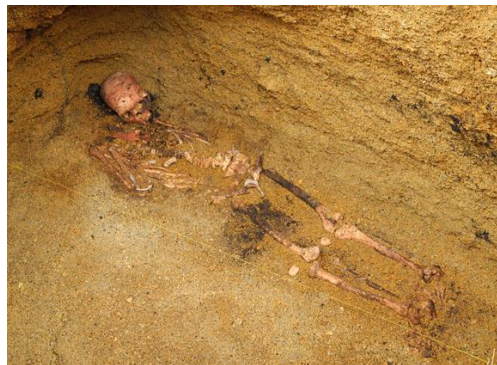
- ・調査者：九州大学大学院教授 田中 良之 氏
- ・幼児の人骨を除けば、歯冠計測によって親族関係（血縁関係）の推定ができました。その結果とこれまでの宮崎県内陸部（えびの市・高原町）の事例をあわせて考えると、同時代の畿内地方や北部九州で確認されている父系を基本とした埋葬を示すものではなく、双系的な血縁関係者を中心とする埋葬によるものと思われる。

4 放射性炭素年代測定

- ・調査者：九州大学大学院教授 田中 良之 氏（株式会社加速器分析研究所に委託）
- ・各人骨について、放射性炭素年代を測定し暦年校正した結果、全体的に 5 世紀中頃～6 世紀前半に位置づけられることがわかりました。



A号玄室の人骨3体



B号玄室の人骨1体